

京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。
医療安全管理室のホームページを新しく改訂しました。
URL も変わりました。

<https://safety.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>

今回は、データ分析のお話です。

項目：

1. データ分析することの意義
2. 今後の PDCA サイクルの展望

1. データ分析することの意義

京大病院の医療安全管理室のホームページは、2011 年 4 月に現室長が着任、その翌月から運用開始しました。今回のホームページ改訂で 3 回目になります。

ホームページを作った目的は、「医療安全管理マニュアル」を変更管理するため。それまでは印刷版のみ。旧版と新版の差し替え作業が必要でした。それでも差し替え忘れで旧版を誤って使用し続けるリスクもありました。また、一度、作ると改訂に重い腰になりがち、ですね。結果として、見直しの障壁に。

Web 上でアクセスできること、院内の電子カルテシステムからアクセスできること。この仕組みができれば、上記の諸課題は解決できると考えました。マニュアルだけでなく、医療安全ニュース、転倒転落防止ニュース等、様々な情報が私たちのホームページにあります。

10 年前の医療安全ニュースを見ると、当時の状況から、今は、改善したことも分かります。一人ひとりの努力で、変わっていることを感じます。

ところで、マニュアルはどの程度読まれているのか。それが分かれば、職員に使われているマニュアルや使用頻度が少ないマニュアルが分かるので、活動の参考になるのに・・・と考えてきました。

そこで、新しいホームページでは、Google アナリティクスを導入しました。

放射線部門や内視鏡部門のマニュアルは参照されるマニュアルの上位です。

マニュアルの極意は、「暗黙知を形式知に！」
マニュアルを作る過程で、言語化する作業が発生します。
なんとなくわかっているではだめで、明確にわかっていることが求められます。関係職種が話し合うことで、業務工程が洗練されていきます。

使用頻度の高いマニュアルは、それだけ必要で、求められているということ。使用頻度が低かったり、全く使われていないマニュアルは見直しの対象です。

<要らないマニュアル>を捨てる（＝整理する）作業をするには、整理対象を特定することが必要です。Google アナリティクスを活用してみたいと思います。

私たちの日常業務の中でも、やらなくてもよい業務がありませんか？
本当に必要か？を判断するためには、現状の分析が必要です。

2. 今後の PDCA サイクルの展望

京大病院の職員の皆様にはおなじみの PDCA サイクル。

Plan→Do→Check→Act→P・・・ですよね。

今回のホームページ改訂は、

Plan:分析ツールを使って、人々の関心の高いコンテンツを作る

Do : 分析ツールをホームページに実装する

Check : どのコンテンツに興味・関心が大きいかわかる

Act : ホームページのコンテンツを見直すかどうか判断

意外と院外からのアクセスが多いことが、今回の分析による発見です。
北海道から九州まで。各地からのアクセスがあります。

また、もうひとつ。京都大学病院からは、「ダブルチェックの見直し」や「ダブルチェック神話からの脱却」を発信しているのですが、その情報へのアクセスは非常に高いです。

といっても、京大病院医療安全管理室のホームページではありません。

四国厚生局開催の医療安全講演会にて使用した資料です。

ダブルチェックの有効性を再考する - 厚生労働省

https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/shikoku/kenko_fukushi/000085434.pdf

Google で「ダブルチェック」を検索すると、上記 PDF が 1 位に表示されます。いろいろなサイトに引用されています。

「面白い！他の業界でも参考にすべき。」

「この資料は主に医療現場におけるダブルチェックの有効性に関する資料なのですが、すべてのオペレーションに共通するエッセンスも含んでいます。」

「これは勉強になります。確かにたくさんの人数でチェックしていたとき、組織は機能不全そのものでした。」

特許事務所のブログにも紹介されています。弁護士さんも見ているようです。警察署の教育でも使用されているようです。

日経クロストrend（デジタル戦略メディア） 明日の話題に使えるIT小話にも、「ダブルチェックの功罪 京大病院の挑戦に学ぶ、ルールの見直し方」として、紹介されていました。

<https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00105/00067/>

2021年8月の医学界新聞では、「ダブルチェックの一部廃止に向けた京大病院における実践」が掲載されました。

https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2021/3433_01

ダブルチェック見直しは、多くの共感を得ていることが、Google 検索サイトから分かりました。

さて、京大病院がダブルチェックを見直すに至ったきっかけは「なぜダブルチェックをしたのに、エラーが起こったのか？」という疑問でした。

そこで、インシデント報告を分析したところ、本来は、工程管理を整理・整頓することでエラーを防げる場面で、ダブルチェックが安易に用いられている事実が分かりました。

そこで、不要なダブルチェックを無くす取り組みを継続してきました。まさに、PDCAサイクルです。

管理部門としては、「その仕事、本当に必要？」という目で、これからも、業務の見直しを提案したいと思っています。そのうえで、「本当に必要な仕事には、きちんと時間と資源と人員を割り当てる。」これが重要だと感じています。必要かどうか、データから判断できるとよいですね。

今回は、「データ分析」について、お伝えしました

